



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

鏡

校長 道山 正史

藤棚に花がつき始めました。今年はこんもりと緑の葉っぱの脇から申し訳なさそうに咲いてきましたが、そのうち主役になれるのかどうかわかりません。

さて、5月5日は「こどもの日」ですが、子供のよりよい成長を願い、邪気をはらう薬草としても知られる菖蒲を湯に入れたり、束ねた菖蒲を軒先につるしたりするなど、様々なことが昔から行われてきました。いつの世でも大人が子供のことを想う気持ちは変わりません。しかし「三つ子の魂百まで」といわれれますが、親やまわりの大人達の行動は、知らぬ間に子供へのメッセージとして伝わり、知らず知らずのうちに子供の「価値観」へと変化していくのではないのでしょうか。ここに、ドロシー・ロー・ノルトという方が著した「子供が育つ魔法の言葉」(PHP文庫)という本があります。その中の有名な詩をご紹介します。

「子は親の鏡」

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と想ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭に育てば、子どもは、
この世の中はいいところだと思えるようになる

「児童は教員の鏡」私たち教職員も心しておきたい大切なことです。